

ソマリア

SOMALI DEMOCRATIC REPUBLIC

任国情報

1990年

**国際協力事業団
国際協力総合研修所**

ARY

国際協力事業団

20867

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家、JICA事務所員、プロジェクト調整員、協力隊調整員とそのご家族の多大なご協力を得ました。また、外務省、在外公館その他機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

JICA LIBRARY



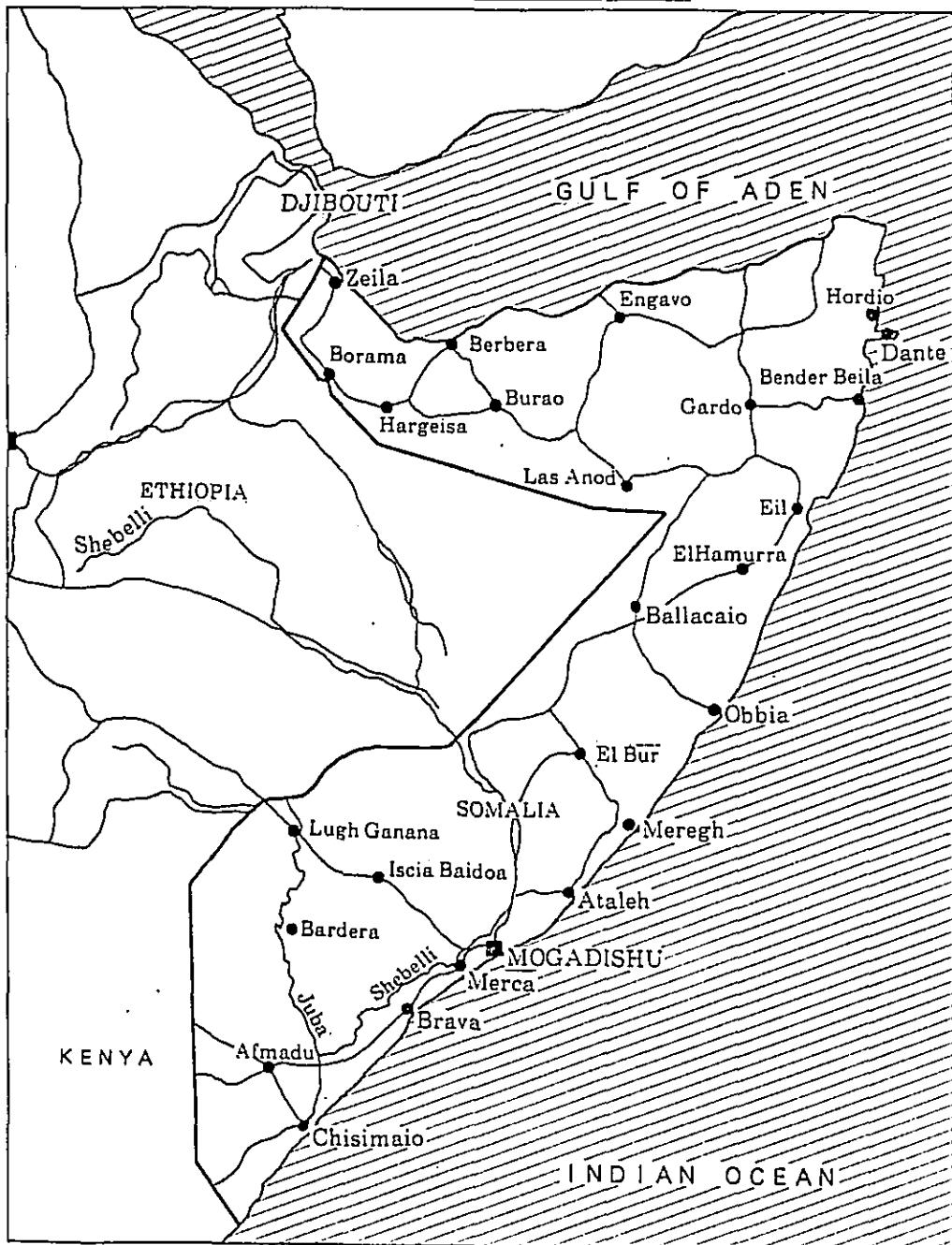
1080878[0]

平成2年2月

20867

国際協力事業団
国際協力総合研修所所長

ソマリア民主共和国



目 次

頁

I 一般事情

1. 主要指標	1
2. 略 史	3
3. 政治, 外交	4
4. 経済事情	6
5. 我が国との関係	10

II 生活事情

1. 食生活	14
2. 衣 料	17
3. 住 宅	19
4. 医 療	22
5. 教 育	27
6. 家庭の使用人	29
7. 交通事情	30
8. 通 信	33
9. マスコミ	36
10. 教養, 娯楽, 遊興, スポーツ	38
11. その他のサービス	42
12. 観 光	43
13. 治安, 緊急時の心得	45
14. 出入国手続きおよび帰国手続き	46
15. 私財の輸送, 引取り, 購入	51
16. 社 交	53
17. 任国公官庁	54
18. 在外日本関係機関等	55
19. 地方都市	56

主要指標

I 一般事情

1. 主要指標

1-1 国名	ソマリア民主共和国 Somali Democratic Republic
1-2 独立	1960年7月1日(旧宗主国:英國, イタリア)
1-3 首都	モガディシュ Mogadishu 人口50万人(1987年)
1-4 面積	637,664平方キロメートル (日本の約1.8倍)
1-5 気候	

海岸部は高温多湿で、内陸部は、高温乾燥である。気温は18°C~35°C。雨量は南部地方で年間320~500mm、北部の高原で500mm程度である。既して4月が最も暑く、6~10月がしのぎやすい。

モガディシュにおける平均気温表

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温(°C)	26.4	26.7	27.8	28.9	28.4	26.4	25.6	25.6	26.1	27.2	27.2	27.0
降水量(mm)	0	0	0	58	58	97	64	48	25	23	41	13
平均湿度(%)	79	77	77	77	80	81	82	83	82	80	80	80

1-6 人口	571万人(1987年) 人口増加率 2.9%
1-7 人種構成	ソマリ族(クシティク語系)
1-8 言語	公用語: ソマリ語 その他: 英語, アラビア語, イタリア語
1-9 宗教	95%以上がイスラム教徒(主としてスンニ派)

主要指標

1~10 政 治

- (1) 政 体 共和制
(2) 元 首 モハメッド・シアド・バレ大統領
Mohamed Siad Barre
(3) 議 会

定員は177人で、うち6人は大統領が指名。また議員(任期5年)に立候補するのはソマリア社会主義革命党(SRSP)党員のみ。

- (4) 政 党 ソマリア社会主義革命党の一党制

1~11 経 濟

- (1) GDP 2,919億ソマリア・シリング(1988年推定)

- (2) 主要産業 牧畜：牛、羊、山羊、らくだ。
(総輸出額の約80%が家畜輸出)
農業：バナナ、砂糖きび、ごま
鉱業：石灰石、海塩

- (3) 貿 易 輸入(CIF)4億5,800万ドル
輸出(FOB)6,400万ドル(1988年)

- (4) 財 政 歳入146億2,500万ソマリア・シリング
歳出193億7,500万ソマリア・シリング
(1988年推定)

- (5) 通 貨 通貨単位：ソマリア・シリング(Somali Shilling)
略 号：S.Sh
為替相場：US\$=340S.Sh
(1988年3月末)

- (6) 外貨準備高 1,530万ドル(1988年)

- (7) 対外債務 22億8,800万ドル(1988年)

1~12 日本との時差

時差は6時間で、日本の正午はソマリアでは午前6時である。

略 史

2. 略 史

1887年	ソマリア北部イギリス保護領となる
1889年	ソマリア南部イタリア保護領となる
1960年 6月	イギリス領独立
7月	イタリア領独立
	同時に旧イギリス領と合併、ソマリア共和国となる
1969年 6月	シェルマルケ初代大統領に就任
1969年 10月	クーデター発生、ソマリア民主共和国と国名を改称、バレ政権成立
1974年 2月	アラブ連盟加入
7月	ソマリア・ソ連友好協力条約締結
1977年 6月～1978年3月	オガデン紛争
11月	ソマリア・ソ連友好協力条約破棄
1979年 8月	新憲法制定
12月	人民議会選挙
1980年 10月	非常事態宣言、最高革命評議会(SRC)復活▷ アメリカと軍事施設利用協定締結
1981年 8月	リビア外交関係断絶
11月	合同軍事演習開始(アメリカ、エジプト、スーダン、ソマリア)
1982年 3月	非常事態宣言を解除 革命評議会を解散
8月	エティオピアとの国境地方に非常事態宣言
1985年 4月	リビアと復交
1986年 12月	バレ大統領再選
1988年 4月	エティオピアと和平について協定し、多年にわたった確執が終わる。

3. 政治、外交

3-1 最近の政情

ソマリアは、1969年10月の革命以来シアド・バレ少将を大統領とする軍事政権の支配下にある。1979年8月、国民投票で承認された憲法により、ソマリア社会主義革命党(SRSP)が唯一の合法政党となり、ソマリアにおける政治・経済に対し最高の権限を有している。

政体としては三権分立制をとっているが、行政府の長たる大統領に、条約の批准権、法案の同意権を与える等、行政府の権限が大きいことが特徴。

現バレ大統領はソマリア国内の各氏族の勢力均衡により政権の安定化に努め、1980年1月、人民議会の信任に基づく当選に続き、1986年12月、今度は全国民による大統領選挙で圧倒的多数で再選され、再び7年間の任期を努めることとなった。

バレ大統領は高齢であり、特に1986年5月の交通事故以来体力の衰えが取沙汰されている。それとともに同大統領の長男であるマスラー准将を中心に、同大統領出身の閥族内外で後継者争いが生じており、今後の政局の推移が注目されている。

1988年5月末からエチオピアとソマリアの関係改善を背景に、エチオピアの支援を期待できなくなったソマリア北部反政府ゲリラ(SNM)がハルゲイサ、ブラオ市で都市攻撃事件をおこし、このため40万人ものソマリア難民がエチオピア領内に流入。同地域での戦闘は現在小康状態であるが、SNMはバレ政権に不満を抱く北部イサック族を支持基盤としており、今回の事件がバレ政権の安定性に及ぼす影響が注目される。

3-2 外 交

ソマリアは、独立以来「大ソマリア主義」を唱え、国外のソマリア系住民居住地であるエチオピア領オガデン地区、ジブティ並びにケニア北部の帰属を巡り、エチオピア、ケニアと対立した。特に、エチオピアとはオガデン地方を舞台に1977年武力衝突が発生している。大規模な戦闘は1978年3月に収拾されたが、その後も両国国境付近で小競り合いが散発している。両国は1986年1月、9年振りに首脳会談を実施、その後も3度にわたり外相会談が行われたにもかかわらず、両国間関係に大きな進展は見られなかった。1988年3月の両国首脳会議を機会に緊張緩和の動きが進展、4月には11年振りの外交関係再開、両国軍隊の国境からの分離・撤退等につき合意が成立し、8月には相互の捕虜交換が実現。

ソマリアは1969年の社会主义路線以来, ソ連と友好関係を深めていたが, オガデンを巡るエティオピアとの武力紛争を契機にソ連がエティオピア支持色を鮮明にし軍事援助を実施したことから, ソマリアは1977年11月ソマリア・ソ連友好協力条約を一方的に破棄した。なお, ソマリアはこの後西側諸国への接近をはじめ, 米国など西側およびエジプト, サウディ・アラビア等の稳健派アラブ諸国に軍事・経済協力を求めている。

ただし, 1988年5月以来の北部内戦を契機に, 西側NGOを中心にソマリア政府の人権侵害を非難する動きが見られ, ソマリア側はこれに強く反発している。なお, 1986年10月にはソ連との間で, 冷却化していた両国関係を正常化させることで合意している。

ソマリアはイスラム教を通じ伝統的にアラブ諸国と緊密な関係を有している。1974年にアラブ連盟に加入し, エジプトのイスラエルとの平和条約(いわゆるC.D.A体制)を支持している。さらに, アラブ産油国, 特にサウディ・アラビアよりかなりの援助を受けている。また1988年12月にはバレ大統領がリビアを訪問する等, 近時リビアに接近する動きも見られる。

経済事情

4. 経済事情

4-1 概 観

ソマリアは地味貧しく、半砂漠的国土で一人当たりのGNPが290ドル(1987年)の後発開発途上国である。主要産業は牧畜と農業であるが、農業可耕地は推定で750万haであり、また、実際に耕作されているのは8万haである。家畜とバナナが全輸出の80~85%をしめている。また、アラブ産油国などへの海外出稼者からの送金も大きい。

現在ソマリア経済を最も圧迫しているのは、隣国エチオピアから大量に流入している難民である(難民数約70万人)。これら難民は41ヵ所の難民キャンプに収容され、我が国をはじめ西側諸国、UNHCRなどより援助を受けているが、十分ではなく、ソマリア経済にとって大きな負担となっている。

また1988年よりの北部内戦による都市施設の破壊、反乱勢力鎮圧のための政府軍維持も大きな負担になっていると推測される。

同国は、外貨獲得源に恵まれず、国際収支は慢性的な入超で、構造的な弱さを持っており、外国よりの贈与や借款に大きく依存している。貿易収支は恒常的に赤字である。

ソマリアは、1980年代初頭よりIMF・世銀の指導のもと、農産物価格見直し、補助金削減、機構改革、輸入統制廃止、外貨オークションシステムの導入等を通じた自由化を推進してきた。1987年9月オークションシステムを停止し、1ドル=100ソマリア・シリングとしたため、IMF・世銀と対立したが、1988年7月、為替切下げが合意され、関係好転。

4-2 産 業

(1) 畜産業

GDPの約半分をしめ、就労者の8割、輸出の2/3をしめる畜産業は、ソマリア国民の大半の生活を支えている。同部門は1980~84年間に年15.8%の成長率を示している。しかしこのソマリア経済の大黒柱である畜産業をめぐる状況は厳しく、ソマリアの家畜に84年疫病が発生したため、それを理由に主要な輸出相手先であるサウディ・アラビアがソマリアからの家畜輸入を禁止した。また近年放牧に適した牧草地の減少が起こっている。

経済事情

(2) 農産物生産

農産物生産部門はGDPの1割程度をしめるにすぎないが、輸出品としては重要品目の1つであるバナナを産出している。またジュバ、シェベリ両河川流域に定着している、ソマリア人口の2割程をしめる農耕民にとっては生計を支える重要な産業となっている。1984年の農産物生産はGDPの9.9%をしめ、1980-84年間の年平均成長率は4.9%で、あまり好調とは言えない。

(3) 林業

林業は地方民にとって重要な燃料源を供給する役割を担っているが、近年1.3%の低成長で、1984年現在GDPの4.0%に貢献するにすぎない。ソマリアの森林面積は約9万Km²、国土の14%にすぎず、しかもその中身を見ると喬木林がわずか0.1万Km²、かん木林が6.2万Km²と、コマーシャルベースの木材伐採の面から考えると森林資源としての質はあまりよくはない。主としてソマリアの森林資源は、薪および木炭の供給源として利用されている。

(4) 漁業

ソマリアはインド洋、アデン湾に沿って海岸地域に広がっており、3,300Kmの海岸線を有している。その水産資源の潜在量は豊富で、年間19万トンの漁獲高はあるものと推定されているが今までのところでは1984年の漁獲量が1.8万トンと推定潜在量の1/10にすぎず、また対GDPシェアも0.8%と低く、漁業部門の重要性はまだ高くない。しかし1980-84年間の平均成長率は年31.1%の高率を残しており、今後の生産拡大、さらに輸出品としての役割が期待される。

(5) 製造業

製造業部門は近年わずかながらマイナス成長を示しており(1980-84年平均-2.3%)、1984年の対GDPシェアは5.5%まで低下している。ソマリアの製造業は輸入代替を目的とした工業部分と、ソマリアの基幹産業である畜産業、漁業、農業の生産物を加工し、輸出を目的とした工業部分とに分けられる。

輸入代替産業として重要なものは、繊維、製糖、石油精製、穀物加工、食用油生産、タバコ・マッチ、皮革、靴、薬品等で、主要な輸出産業は食肉、魚類加工業である。

経済事情

4-3 財政

国家財政

(単位: 100万ソマリア・シリング)

年	1983	1984	1985	1986※	1987※	1988※
経常歳入	4,253	3,979	5,220	9,596	9,706	14,625
内) 租税収入	3,464	2,980	4,582	8,517	8,373	11,717
経常歳出	4,716	8,140	9,918	17,340	30,181	19,375
開発支出	498	662	1,372	3,131	—	—
収支	-962	-4,823	-6,070	-10,875	—	—
対外資金調達	1,257	2,258	5,025	—	11,808	4,292
国内資金調達	-295	2,565	1,045	—	8,667	458

※…当初額

4-4 貿易, 国際収支

貿易収支

(単位: 100万ドル)

年	1983	1984	1985	1986	1987	1988
輸出 (FOB)	101	62	91	90	91	64
輸入 (CIF)	450	406	380	447	488	458
収支	-349	-344	-289	-357	-397	-393

経済事情

国際收支

(単位: 100万ドル)

年	1982	1983	1984	1985	1986	1987
輸出 (FOB)	170.8	98.4	54.8	90.6	88.5	103.6
輸入 (FOB)	- 471.4	- 362.1	- 465.7	- 330.7	- 383.0	- 485.2
貿易収支	- 300.5	- 263.6	- 410.9	- 240.2	- 294.5	- 381.5
貿易外収支	- 53.6	- 45.2	- 78.0	- 80.3	- 77.7	- 119.4
民間移転収支	13.7	19.1	162.9	19.4	24.1	39.6
政府移転収支	162.9	148.2	194.0	204.3	260.6	361.1
経常収支	- 177.4	- 141.6	- 132.0	- 96.6	- 87.7	- 100.2
直接投資	- 0.8	- 8.2	- 14.9	- 0.7	- 0.1	- 11.4
長期資本収支	139.0	76.5	110.8	77.7	45.7	70.3
短期資本収支	-	-	- 8.5	- 0.3	- 18.0	- 4.7
資本収支	138.2	68.3	87.4	76.7	27.6	54.2
誤差脱漏	75.2	- 4.4	24.6	16.0	16.8	16.2
総合収支	36.0	- 77.7	- 19.9	- 4.0	- 43.3	- 29.7

我が国との関係

5. 我が国との関係

5-1 政治、外交

我が国はソマリアを独立(1960年7月1日)と同時に承認し、現在は在ケニア大使館がソマリアを兼轄している。一方、ソマリア側は1982年10月1日、我が国に大使館を開設した。

5-2 経済、貿易

1987年の我が国の対ソマリア貿易は輸出が1,049万4,000ドル、輸入が138万4,000ドルで911万ドルの出超となった。

・対ソマリア貿易

(単位：1000ドル)

年	1983	1984	1985	1986	1987
輸 出	11,629	5,511	10,692	24,716	10,494
輸 入	79	466	408	30	1,384
収 支	11,550	5,045	10,284	24,686	9,110

主要品目別輸出入実績(1987年)

(単位：1000ドル)

輸入総額	1,384	輸出総額	10,494
象 牙	901	貨物自動車	4,137
		乗 用 車	1,382

5-3 経済・技術協力

DAC諸国は、1986年支出純額で3億5,386万ドルの二国間ODAを供与しており、贈与がこのうちの86.9%をしめている。主要援助国は、イタリア(1億5,928万ドル、シェア45.0%)、アメリカ(8,200万ドル、同23.2%)、および西ドイツであり、我が国は、3,026万ドルを供与し、シェア8.6%で第4位の援助国である。

また、国際機関は、1986年支出純額で1億6,682万ドルのODAを供与しており、UNHCR、IDA、およびWFPが主要援助機関である。

我が国との関係

DAC諸国および国際機関の援助は、80年代に入り大幅に拡大している。形態別には贈与が中心であり、分野別には主要生産部門である農業、牧畜業、運輸、通信、水供給等のインフラ部門が中心となっている。

我が国の援助は1970年代には技術協力に限られていたが、80年代に入り食糧、難民、水供給、保健・医療等の分野を中心に無償資金協力を実施してきている。最近ではその供与額が加算とともに対象分野も水供給、運輸、交通等にまで拡大し、1987年までの累計(交換公文ベース)ではソマリアはアフリカ諸国中第8位の我が国無償資金協力受取り国となっている。

有償資金協力については、1982年度に「電気通信網拡充計画」に対し52.7億円の円借款を供与したほか、1986年度にはソマリアの構造調整の一環である「農業資機材計画」に対し「アフリカ基金」とのSJFにより12億円を供与したところである(交換公文ベース)。なお、我が国は、同国の構造調整努力を支援するため、1985年度には「アフリカ基金」とのSJFにより「農業資機材整備計画」に対し無償資金協力(4.00億円)を実施している。

また、技術協力については、研修員受入および専門家派遣を中心に、水産その他の分野において協力を実施している。

この結果、我が国が同国に対する二国間ODA支出純額は、1985年に前年の4倍に、1986年3,026万ドル、1987年には2,266万ドルとなっている。

我が国のODA実績

(支出純額、単位：100万ドル)

暦年	贈与			政府貸付	合計
	無償資金協力	技術協力	計		
1983	2.58 (0.5)	0.18 (0.0)	2.76 (0.3)	- (-)	2.72 (0.1)
1984	2.63 (0.5)	0.18 (0.0)	2.81 (0.3)	0.40 (0.0)	3.21 (0.1)
1985	6.81 (1.1)	0.67 (0.1)	7.48 (0.6)	5.29 (0.4)	12.77 (0.5)
1986	11.87 (1.4)	0.46 (0.1)	12.33 (0.7)	17.93 (0.8)	30.26 (0.8)
1987	14.72 (1.3)	0.89 (0.1)	15.61 (0.7)	7.05 (0.2)	22.66 (0.9)

(注) ()は我が国二国間ODAにしめる割合(%)

我が国との関係

年度別・形態別実績

(単位:億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1982年度 までの 累計	52.70億円 電気通信網拡充計画 (B2年度: 52.70)	35.40億円 水産物流通改善計画[84] (80年度: 5.00) 食糧援助 (80年度: 3.30) (81年度: 4.40) 難民向け食糧援助 (80年度: WFP経由: 4.30) (81年度: WFP経由: 5.60) 社会福祉計画 (B1年度: 2.00) 食糧援助 (B2年度: 4.53) 難民向け食糧援助 (B2年度: WFP経由: 6.27)	2.69億円 研修員受入れ 25人 専門家派遣 12人 調査団派遣 5人 機材供与 50.3百万円
1983年度	なし	14.99億円 モガディシュ総合病院整備計画[84] (5.00) 食糧援助 (5.39) 災害援助 (0.86) 難民向け食糧援助 (WFP経由: 3.74)	0.39億円 研修員受入れ 3人 機材供与 0.4百万円
1984年度	なし	21.43億円 食糧援助 (5.28) 輸送力増強計画 (6.00) 食糧援助 (4.00) 食糧増産援助 (2.00) 災害援助 (UNICEF UNHCR 経由) (0.39) 難民向け食糧援助 (WFP経由) (3.76)	0.85億円 研修員受入 4人 専門家派遣 2人 調査団派遣 9人 機材供与 13.8百万円
1985年度	なし	23.77億円 モガディシュ市給水改善計画 (4.04) 食糧援助 (7.00) ロワ・シャベリ地区水供給計画 (6.85) 農業資機材整備計画 (SJF関連) (4.00) 難民向け食糧援助 (WFP経由) (1.88)	1.22億円 研修員受入 9人 調査団派遣 7人 機材供与 6.2百万円

我が国との関係

年度別・形態別実績

(単位: 億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1986年度	12.00億円 農業資機材計画 (12.00)	19.68億円 モガディッシュ市給水改善 計画 (1.51) ロワ・シャベリ地区水供給 計画 (6.31) 食糧増産援助 (3.00) 道路建設機械整備計画 (2.86) 食糧援助 (6.00)	0.70億円 研修員受入 12人 専門家派遣 1人 機材供与 0.70百万円
1987年度	1.36億円 債務救済 (1.36)	12.98億円 ロワ・シャベリ地区水供給 計画 (III) (3.98) 食糧援助 (6.00) 食糧増産援助 (3.00)	1.24億円 研修員受入 13人 専門家派遣 4人 調査団派遣 14人 機材供与 17.5百万円
1987年度 までの 累計	66.06億円	128.25億円	7.09億円 研修員受入 66人 専門家派遣 19人 調査団派遣 35人 機材供与 89.1百万円

- (注) 1. 「年度」の区分は、有償資金協力は交換公文締結日に、無償資金協力および技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、有償資金協力および無償資金協力は交換公文ベースに、技術協力はJICA経費実績ベースによる。

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食 料

(1) 一般事情

ソマリアの国土面積は、日本の約1.8倍である。ここに約580万の人間と4000万頭の家畜がすんでいる。これら家畜類(山羊、牛、らくだ等)は、ソマリアにとって、もっとも重要な輸出商品であると同時に、ソマリア人の主食ともなる大切なものである。

農耕地として利用されている地域は限られている。また、生産技術も低いことから、農産物は質、量とも満足できるものではないが、一応、野菜、果物は周年出回っている。

モガディシュ定住者の主食はスパゲティー、メイズ、ソルガム、米、豆類である。メイズ、ソルガムは国内で生産されたものであるが、米、麦、スパゲティーはほとんどが輸入品である。

(2) 主な食品の出回り状況

スパゲティーは国産品と輸入品(イタリー製)があるが、スーパー・マーケットで売られている物は、ほとんどが輸入品である。

米はイタリア米、オーストリア米などがあるが、時々品切れになる。ある程度の買いだめをしておく必要がある。

パンは、最近スーパーで長方体形状のパンも売れるようになったが、一般には棒状のものが多いので、オープン式トースターが望ましい。

小麦粉、片栗粉もあるが、品切れになることが多い。

山羊肉、牛肉は新鮮なものが調達できるが、一般にかたい。ごく僅かな量であるが輸入冷凍豚肉が、1,2のスーパー・マーケットで調達できる。また、コーンビーフ缶詰は国産、輸入品とも出回っている。

魚類は、季節により多少魚種が変るが、はた類、ふえふきだい類、さわら類は周年ある。きはだまぐろの漁期には、新鮮な刺身も食べられる。高価だがロブスターも調達できる。また、台湾製、タイ製のまぐろ缶詰や、イタリア製のいわし缶詰も出回っている。

時期により、種類に多少の変化はあるが、新鮮なピーマン、レタス、玉ねぎ、きゅうり、にんじん、じゃがいも等が調達できる。外国人がよく利用するいくつかのスーパー・マーケットの前には、野菜、果物屋が屋台を出している。市場で買うよりいくらか高めだが、買物には便利である。

バナナはソマリアでの生産量の65%を輸出しているほどで、その品質は世界でも一級品とのことである。また、グレープフルーツ、すいかは甘く、レストランではジュースにして出している。マンゴーは少々筋っぽいが充分に食べられる。

砂糖、塩等調味料はほとんど輸入品である。最近ではしょう油もみられるようになったが、みそはまったく無いので日本から持参したほうがよい。マヨネーズ、ウスター・ソースは輸入品が調達できる。

ソマリアの地下水は硬度が高いため、飲料水として利用する場合は、一度煮沸し、石灰分を取り除く必要がある。また、輸入品のミネラル・ウォーターがスーパー・マーケット、もしくは免税店で調達できる。

イスラム教国であることから、酒類は市販されていないが、免税店で調達可能である。ただ、ビールは品切れの期間が長く、入手困難である。

(3) 食料の入手方法

当国では日本食の調達はほとんど不可能である。また、輸入品も品切れになることが多いことから、ある程度の食料は赴任時に携行したほうがよい。

市内にはスーパー・マーケットと言われる店が数多くあるが、外国人が利用しているものは、その中の3~5店である。しかし、これも間口1間、奥行き2間といった程度の小規模なものである。

魚の小売店はほとんど無い。直接水揚地に行って調達する。最近、外国人の家に魚の行商人が見られるようになった。

1-2 調理、食器具等

調理用品、食器具類は中国製、イタリア製のものがあるが、品質はあまりよくない。特に、調理用ナイフ、フライパン、鍋等は粗悪品である。また、電気製品は品数が少なく高価なので、持参することが望ましい。

モガディシュ市内でも、1日の半分は停電である。したがって大型ジェネレーター無しでは電気製品の使用はきわめて困難である。(在ソマリア国連機関の場合は、国連よりジェネレーターはじめ、生活必需品で、かつ高額の物、たとえば、冷蔵庫、ディープフリーザー、エアコンディショナー等は、きわめて安い料金で職員に貸し出している。)

ソマリア人の家庭では、その95%が炭火を使用している。したがって炭火を利用する場合は、それ用の鍋、釜を考える必要がある。

ソマリアの電圧は220V、50サイクルである。

食生活

1-3 外 食

(1) 飲食店

日本料理店はない。日本人、外国人がよく利用するレストランは次のとおり。

飲食店一覧表

料理の種類	店名
イタリー料理	ホテル・グレード内 ホテル・マカ内 ブルーマリン
中華料理	明星(ミンシン) 香港
タイ料理	アメリカンクラブ内 (会員のみ利用可)

注) 20ページの添付地図参照

いずれも予約なしで利用可。ビールは330ml入りで、1本1000~1200シリングと高い。1人当たり食事代は、飲み代抜きで、1000~1500シリングである。

(2) その他の飲食店

現地製ハンバーガー・ショップが2,3店ある。ただしあまり衛生的ではない。

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

年間を通じ、高温、乾燥した気候である。しかし、6月から9月までの南西モンスーンのシーズン中には、日中でも比較的涼しく、夜など外出時には長袖シャツが欲しくなるほどである。

ソマリアの男性は、ほとんどがシャツにズボンであるが、女性の場合には99%が伝統的衣装である。その為か、ソマリアでは女性用洋服はほとんど売られていらない。

オフィスでも半袖シャツにズボンの軽装でよい。ネクタイはまず必要ない。

衣料雑貨店や路上の屋台で韓国製、中国製などの男性用シャツやズボンなどが売られている。品数は少なく、品質も悪いが調達は可能である。婦人用また子供用の衣類は調達困難である。

運動靴は、韓国製、台湾製、イタリア製の比較的良質のものが調達できる。履物についても、婦人用品は少なく品質も悪い。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

下着類、靴下、ハンカチ、タオル等、すべて日本より持参したほうがよい。シャツ、ズボンも現地調達可能であるが、綿製品はないので日本から持参されたい。婦人用、子供用衣類は上着、下着ともすべて日本で準備する必要あり。

市内には数軒のクリーニング屋があるが、出来あがるまでに日数を要す。また、アイロンかけが雑であるので、なるべく家庭でしたほうがよい。ドライ・クリーニング店はあるが、同じ理由で、出さないほうがよい。ドライ・クリーニングの必要がある衣類は、持参しないほうがよいであろう。

(3) 任国で調達したほうがよい衣料

取り立ててない。

(4) その他留意すべき事項

生理用品もあるが、日本から持参したほうがよい。

修繕用針、糸、ゴム等は持参する必要がある。

衣 料

2-2 礼 装

(1) パーティー

一般に考えられているような形式のパーティーはない。ソマリア人の会食にもソマリア人の服装は、シャツにズボン、それに履物はぞうりもしくは靴、といった、まったくの普段着である。したがって、特に礼装を用意する必要はない。邦人仲間、外国人友人などの集りでも、まったくの普段着である。

(2) 式 典

大統領や大臣等が出席するようなセレモニーでも、出席者はノーネクタイの軽装である。公式用スーツを着用する必要もない。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗 濯

洗濯は主なホテルおよび市内にあるクリーニング店で可能である。しかし、アイロン掛けが難なので、背広などは出さないほうがよい。ホテルでドライ・クリーニングとあるが、これはアイロンをかけるだけのことである。家族同伴であれば、洗濯機、アイロンを用意し、家庭でやったほうがよい。

(2) 仕立、修繕

数多くの洋服仕立て屋があるが、技術は劣悪である。修繕も自分でやるほうがよい。

(3) 保 管

防虫剤がないので、日本から必ず持参すること。年間を通して乾燥しているため、かびが発生することはない。しかし砂ぼこりがひどいので、スーツなどは全体をカバーできるような布切れが必要である。

住 宅

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

モガディシュの住宅事情はあまりよくない。アパートは2つしかないため、ここへの入居は困難である。ウェイティング・リストに入れても、さらに1年間待つといった状態である。一軒屋を借りる場合は、給水、電力の事情を十分に考慮する必要がある。条件の良い地域でも、停電は毎日あり、長い時は2,3日まったくないことが月に1,2度はある。このため1.5KV位のジェネレーターを用意することが不可欠の条件となる。

屋賃は家具なしで、6万~15万シリング/月である。入居時に6~12カ月分の前払いが一般的である。支払い方法は、政府規則により、ソマリア中央銀行にドルで支払う。

家具は自分で購入することになるが、輸入品はきわめて高価である。冷蔵庫、エアコンディショナー等は高価でかつ品数も少なく調達は難かしい。国連機関では機関で所有し、職員に貸し出している。

ホテルを利用している長期滞在者もいる。給水、電力等の条件は、ホテルがジェネレーターを備えているため、一軒屋に比べよい。

(2) ホテル事情

モガディシュにおける主要ホテルは以下のとおりである。

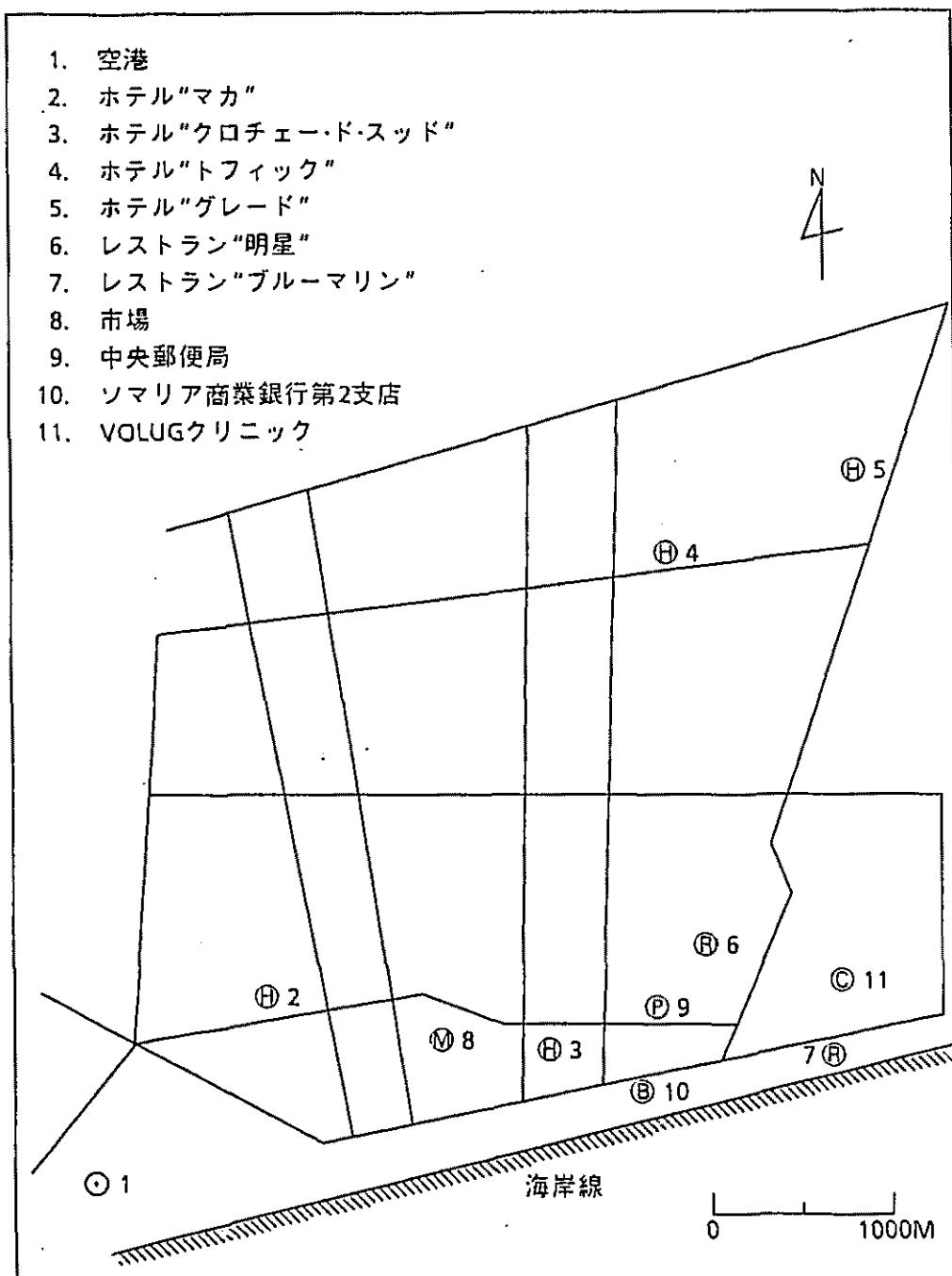
主要ホテル一覧表

ホテル名	料 金 (US\$)		
	シングル	ダブル	バンガロー
Guled	32	40	60
Maka	30~35	40~45	-
Toflique	30~35	40~45	-
Croch Du Sud	30~35	40~45	-

※ 次ページの添付地図参照

住 宅

モガディシュ市内概略地図



住　宅

上記のホテル料金のほかに、10%の税金と5%のサービス料が追加される。ただし、長期宿泊の場合は、期間によるが、最高20%まで室料が割引となる。日本人が主として利用するホテルはグレード・ホテルである。当ホテルは常に満室に近い状況のため、前もって予約が必要である。

(3) 住宅の探し方

モガディシュには正式なブローカーや不動産屋といった職業はない。家探しの方法としては、ホテルのマネジャー、所属機関の職員、他援助機関の知人等を通じ捜すしかない。

(4) 住宅の選定上の留意点

モガディシュの地形は多少起伏がある。高台は見晴らしはよいが、水圧の関係から給水がよくない。外国人の多くは低地にかたまって住んでいる。電力状況は市の中央部が一番よく、遠くなるにつれ悪くなる。犯罪は少ないようだが、防犯設備の有無も条件としたほうがよい。電話のついた家はきわめて限られているので注意が必要である。

(5) 住宅の契約

契約時にかかる費用としては、6~12ヵ月分の屋賃前払いと仲介人への謝金だけである。保証金、敷金といった費用はない。

屋賃は政令により、USドルで契約書と共にソマリア中央銀行に払込む。銀行では受取証明を契約書面上に査証する。また支払われたドルは現地通貨に換金され、家主に銀行より支払われる。この時税金として30%が棒引きされる。

実際には家主の税金対策として、二重契約書を換わしているようである。

医 療

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

入国に際してはコレラと黄熱病の予防接種が必要である。ソマリア人の間では、マラリアや肝炎はみられるようだが、モガディシュ在住の邦人ではほとんど聞かない。ただし、地方出張時にはマラリアにかかる危険性があるので、予防薬を持参されたい。

新生児、乳幼児に対する予防接種は赴任前に済ませておいたほうがよい。

(2) その他赴任前に準備したほうがよい事項

常備薬については、内服、外傷、皮膚薬など一通り携行したほうがよい。砂ぼこりがひどいので、目薬は多めに用意したほうがよい。また、当地にはうがい薬はないので、できれば持参したほうがよい。

一般に、すべての医療技術、設備に問題があるので、治療はナイロビで受けるほうが安全である。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

ソマリヤ在住の国連諸機関の職員は、UNDP内にある専用クリニックを利用している。また、各國からの援助グループの人間を対象にした会員制のクリニックがある。“Volug Clinic”といい、入会金100US\$で会員になれる。週4日間1日2、3時間開いている。コレラの予防接種証明はここで出してもらえる。しかし、あくまでクリニックであり、重症の場合はナイロビで治療を受けざるをえない。

ソマリヤにおける主な医療機関は次のとおり。

医療機関

病院名	TEL
General Hospital	80511
Medina Police Hospital	80902
Benadir Hospital (産婦人、小児科)	80003
Ambulance and Emergency	21000

医 療

バナディール病院は中国の援助で建られ、現在も中国人医師団が技術協力を続けている。また、イタリア人看護婦もたくさんいる。しかし、医療器具、薬品等の不足はきわめて深刻な状態である。注射針さえ不足しており、患者が市内の薬局から買ってこなければならないといった状況である。また病棟内の衛生も劣悪である。

(2) 緊急時の対応と措置

大使館、JICA事務所はないので、テレックスにてナイロビに連絡するしかない。一方、知人等の協力のもと、一時も早くナイロビに出国するよう手配をする。ナイロビへの飛行便は週2便のみである。民間軽飛行機のチャーターも可能であるが、出国手続きに時間を要す。

4-3 医薬品等

(1) 携行することが望ましい医薬品

別表のとおり。

(2) 任国で調達できる医薬品

市内には多くの薬局があるが、限られた種類の常備薬がある程度である。クリニックの処方箋に書かれた薬がない場合は、国外から調達しなければならない。

(3) 任国で調達できる衛生用品

ある程度は調達可能であるが、いずれも古かったりして、粗悪品である。日本にて準備したほうがよい。

(4) 医薬品を使用する場合の留意事項

医薬分業である。医師の処方箋に基づき薬局にて投薬、治療をうける。1987年2名の邦人が治療直後にまひ状態となり、緊急飛行機をチャーターし、ナイロビに運ばれたといった例があった。

医 療

表・携行することが望ましい医薬品

品 名	数 量	効 能
(内用)		
セデスA錠	40錠	頭痛,歯痛
新ベンザ錠	60錠	かぜの諸症状
ブスコバス錠	20錠	胃けいれん
アンピシリン	100錠	大腸菌,インフルエンザ
正露丸	500錠	腹痛,下痢
コンバトリン	40錠	広域駆虫剤
シノミン	40錠	強い下痢
ビタミン錠	200錠	栄養
ビオフェルミン	500錠	整腸
(外用)		
ヨードチンキ	100ml	殺菌消毒
アクリノールガーゼ	50枚	殺菌消毒
フルコート軟膏	5g	湿疹
テラマイシン軟膏	10g	膿皮症
レスタミン軟膏	25g	皮膚炎
メンタム	10g	きりきず
キンカン	50ml	虫さされ
ムヒ	25g	虫さされ
トクホン	80枚	筋肉痛
大学5G目薬	5ml×2	結膜炎
大学目薬	15ml×3	つかれ眼
防虫スプレー	100ml	
(衛生用材)		
薬用石けん		
バンドエイド	各サイズ50枚	
伸縮包帯	各サイズ	
脱脂綿	50g	
ガーゼ	1m×2	
綿棒	120本	
アイスノン	2個	
体温計	1本	

医 療

4-4 妊娠, 出産, 育児

当国での分娩は可能だが、緊急時の対応には問題がある。また、出産後の予防接種等を考えると、ナイロビ、もしくは日本での分娩が望ましい。

4-5 手 術

専門的医療技術はきわめて低く、また入院設備も悪いため、手術、入院等が必要な場合はナイロビにて行うほうがよい。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

ソマリアに多い病気は下痢性疾患、結核、マラリア、住血吸虫、性病等である。外国人は、特にソマリア着任時に、アミーバー赤痢、下痢等にかかりやすい。また、年間を通じて風が強く、砂や動物の糞などが交ったほこりがひどいため、目やのどをいためやすい。1989年2月現在脳膜炎が流行の気さしを見せている。

(2) 風土病、伝染病

現在、ソマリアで一番死亡率の高い病気は、下痢性疾患と結核である。また寄生虫も多く衛生には充分な注意が必要である。

(3) 有害動物、病害虫

モガディシュ市内では、蚊はあまり見られない。しかし、かなりの家畜類が市内にもいるため、はえは多い。モガディシュ郊外ではツェツエバエの発生が問題となっている。ねずみ、ごきぶりが多い。ベストはソマリアを最期の国として撲滅宣言がなされたと聞いている。衛生管理には細心の注意が必要である。市外の半砂漠地にはさそりもある。

4-7 保健、衛生

(1) 飲料水

モガディシュへは、郊外にある井戸からくみあげられた地下水を給供している。この地下水は石灰分が多いため、飲料水として利用する場合は、一度煮沸し、表面に浮いた石灰分を取り除いたほうがよい。

大きなレストランでは、ソマリア製のミネラル・ウォーターがある。また、市内のスーパー・マーケットでは輸入したミネラル・ウォーターが調達できる。

医 痘

(2) 濾過器の入手法

現地での入手は困難である。日本製の蛇口に直接接続するフィルターより、大型のタンク式の物が多い。

(3) その他保健衛生に留意すべき事項

衛生については自分だけでは管理できないことが多い。対策方は休養を十分にとり体力の維持につとめることである。単身赴任者の場合は、栄養がかたよりがちとなるので、ビタミン剤を服用したほうがよい。

教 育

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

国民の約半数が移動生活をする遊牧民である当国において、教育制度を確立することは困難である。しかし、政府はその改善に努力を続けている。学校制度は、小学校(プライマリー・スクール)、中学校(インター・メディエイト・スクール)が各4年。この8年間を終了後、国家試験に合格した者が高等学校(セコンダリー・スクール)に進学する。高校を卒業した者は全員、2年間のナショナル・サービスの義務が課せられる。その内容は、農業、教員、税金集め、兵役等である。このナショナル・サービスを終了後、毎年約1100名位が13の学部をもつソマリア大学に進学する。

(2) 日本人学校

現在(1989年1月)ソマリア在住の日本人の児童数はわずか2名である。過去においても、その数が3名を超えたことはない。このため、日本人学校は当地にはない。

(3) 外国人学校

モガディシュには、アメリカン・スクール、イタリアン・スクール、インディア・スクール等いくつかの外国人学校がある。各学校のグレードとカリキュラムは次のとおりである。

アメリカン・スクール

グレード: 1~8

アメリカン・カリキュラム

イタリアン・スクール

グレード: 1~11

イタリアン・カリキュラム

インディア・スクール

グレード: 1~8

イングリッシュ・カリキュラム

5-2 入学手続きおよび授業

(1) 日本人学校

なし。

教 育

(2) 外国人学校

各学校とも、自国籍の児童に入学優先権を与えているため、空席がない場合は入学困難である。アメリカン・スクールでは現在(1989年)、低学年は一杯で、入学困難である。

アメリカン・スクールの授業料は次のとおりである。(1989年)

入学金: 1000ドル

授業料(年間):

幼稚園児 4,000ドル

G1-5 5,500ドル

G6-8 5,900ドル

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

当国には外国の本を売っている店は、まったくない。コーランが路端に並べられた屋台で売られている程度である。図書館は国立図書館が1つある。アメリカ、フランス、イギリスの各大使館内には広報部があり、図書の貸し出しもしている。また、JICA水産協力専門家事務所(ソマリア水産省内)には、かつての在留邦人によって寄贈された、約400冊の単行本がある。

(2) スポーツ施設

市内には、数ヶ所の国営サッカー場とテニス・コートがある。私営の施設としてはアメリカン・クラブ内に、テニス・コート、サンド・ゴルフ・コース、スイミング・プールがある。ただし、このクラブの会員になるのはきわめて困難である。また、私営のグレード・ホテル内に、小さいながらスイミング・プールがある。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

在ソマリア外国人の中で、語学の家庭教師をする者もある。料金は1時間当たり15~20ドル。

(2) 通信教育

郵便事情がかならずしも良くないので難かしい。在ソマリア国連機関の邦人職員の場合は、所属機関のパウチを利用してるので、大きな問題はないようである。しかし、個人の郵便物の場合は遅配、紛失の心配が大きい。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

ソマリアは失業者が多く、使用人を搜すことは容易であるが、なかなか良い人にめぐり合わない。

一般に、家族を伴い、一軒家に住む場合、運転手、メイド、ウォッチャマンが必要になる。

6-2 運転手

(1) 雇用

在ソマリアの外国人のほとんどは、各国大使館員、国連機関職員、もしくは各国援助機関職員である。個人で車を輸入することが困難(時間を要す)であることから、これら外国人は所属機関の車を使用しているのが一般的である。運転手が必要な場合は、やはり所属機関の専属運転手を使用することになる。

しかし、一般には、市内で運転する場合外国人本人が運転しているようである。

在ソマリア邦人も、地方出張時以外は、すべて自分で運転している。

6-3 メイド

(1) 仕事の人数と種類

当地では、大きなパーティーのようなものはあまりないので、掃除と洗濯だけのメイドで十分なようである。

(2) 雇用

家主、知人、使用人の紹介で雇うのが一般的である。賃金は月6,000シリング前後。

6-4 庭師/ガードマン等の雇用

庭師は必要ない。ウォッチャマンは通常昼と夜の2名が必要である。

交通事情

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

国内での都市間の移動は、バスが主力であるが、ほとんどのバスは老朽化しており、きわめて危険である。飛行機も、便数は少ないが、主要都市間を運航している。鉄道はまったくない。主要都市間の道路は一応舗装されてはいるが、傷みのひどい所が多い。主要幹線道路以外はきわめて悪路であるため、地方に出る場合は4輪駆動車にする必要がある。

モガディシュ市内での交通手段は、自家用車、タクシー、バスの3つがある。タクシーは一応安全と思われるが、外国人とみると、法外の料金を要求するので注意が必要。バスはミニバスが使用されているが、つねに混雑しており、また、運転は荒っぽく危険である。外国人の自家用車は、ほとんどが4輪駆動車である。

(2) 自家用車を利用する場合

モガディシュ市内の主要道路は、一応舗装されているが、一步裏に入ると砂地の悪路である。したがって乗用車よりランドクルーザ・タイプの4輪駆動車が望ましい。

市内では自分自身で運転しても問題ないが、地方に出る時は、ドライバーを使用すべきである。

市内では、交通巡査がしばしば車を止め免許証のチェックをしている。着任後すぐに現地運転免許証に書きかえたほうがよい。書きかえには、日本の運転免許証と国際免許証の提示が必要である。

ソマリアでは左ハンドルの右側通行である。

(3) レンタ・カーを利用する場合

ソマリアのトヨタ代理店がレンタ・カー業務もしている。社名はマリルソマリ、電話は21911である。

(4) 道路マップ

ドライブ用道路マップはない。モガディシュ市内の主要道路を示した簡単な地図が市内にあるコピー店で入手可能である。

全国地図は約600万分の1位の縮図であり、細かいことは判らない。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

交通事故を起こした場合、警察に連絡してもらうとともに、所属機関にも連絡をとることである。

(2) 救急病院

救急車はAmbulance & Emergency 21000に連絡し,手配してもらう。(実態は不明)

(3) 盗難

ソマリアは比較的治安は良いとわれている。しかし,過去に数名の邦人が,わずかの間,車を離れたときに,車内のバッグ類を盗られるといった事件もあった。また,昼夜をとわず,サイド・ミラーをこねされたり盗られたり,といったことはしばしばある。ときには,フロント・グラスさえ盗られるといった事もある。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

ソマリアでは,車は左ハンドルの右側通行である。交通法規はあるのだろうが,その運転振りは,まったく自由勝手である。

道路標式もほとんどない。前方走行車に優先権がある,といった考えが一般常識のようである。

(2) 対処方法

市内では比較的ゆっくりと運転しているが,市外に出ると,人が変ったようなスピード運転となる。しかしソマリアではスピードに関する取締りはまったく行われていない。市内の交叉点には交通巡査がいるが,めちゃくちゃな運転に,なすすべがない,といった様子で立っているだけである。

事故防止のためには,前後左右には常に注意を払って運転することである。ソマリアでは昼間2時から6時までは休息時間で,町中ひっそりとしているが,夜は深夜まで人や車であふれている。しかし,ヘッドランプのない車が多いので,夜間の運転はなるべく避けたほうがよい。

7-4 車の修理

(1) 部品

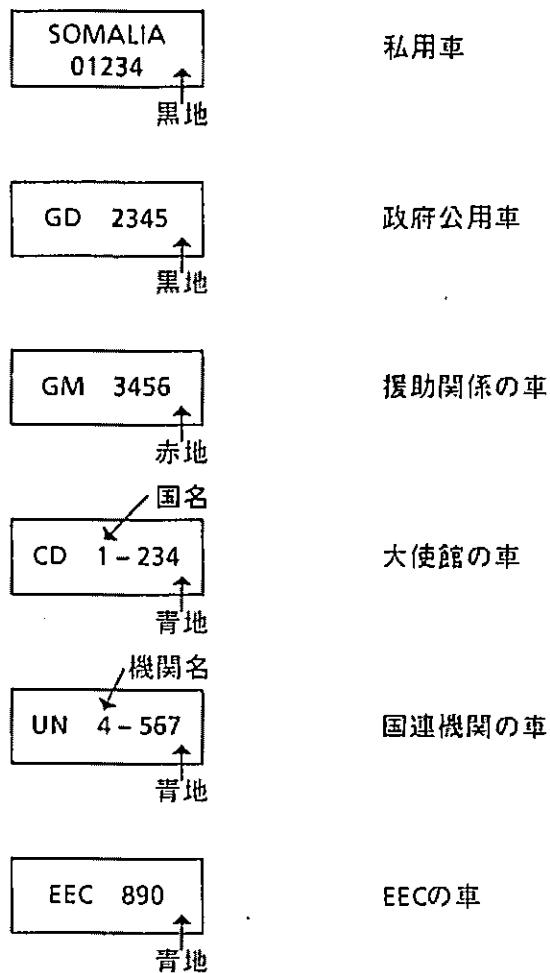
ソマリアに輸入されている車の多くが日本車である。したがって日本車の代理店もあるが,部品の種類,数は限られており,なかなか調達が難しい。また,部品は主に4輪駆動車のものである。

交通事情

(2) 修理工場

技術水準は低く、あまり信頼できない。トヨタ専用修理工場が1店ある。部品の在庫もある程度あり、修理技術も比較的安心できるようである。

当国における車のナンバー・プレートの区分けは、下表のとおりである。



8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

1986年、日本の有償援助により、市内の一部地域の電話網が整備、拡充された。しかし、全体でみればまだまだ普及率はきわめて低い。外国人が住んでいる所でも、まだ付いていない家が多い。公衆電話はまったくない。

(2) 国内電話

国内28ヶ所の市町村に電話網がある。しかし、電力供給が不安定なためジェネレーターを用意しているが、これとて動いていないものが多い。

実際には、市内での電話もなかなか繋がらないといった現状である。

(3) 國際電話

ソマリア、日本間の電話の場合は、ローマ中継である。

交信方法は、郵便局で申し込み書に日本の呼出し電話番号と、希望通話所用時間(3, 5, 7, 10分)を記入して、料金前払いにて申し込む。郵便局内は電話申し込み者で常に混雑しており、かなり待たされる。長い時は2, 3時間、早くても30分位は待たねばならない。

いったん繋がっても、3分たつと自動的に切れてしまう。交換手の“そのまま待て”との指示で受話器をにぎっていると、再び繋がるといった具合である。

1989年1月現在の、日本、ソマリア間の電話料金は次のとおりである。5分間で6,700シリング、10分間で1万3,500シリングである。

一方、私営の一部ホテルからもかけられるようであるが、実際にはなかなか繋がらない。

借家の場合は、国際電話使用として登録されているものだけが可能である。しかしこれはきわめて限られた数しか認められていないようである。

日本からソマリアへの電話はより以上にむずかしいようである。

通 信

8-2 電 信

(1) テレックス

最近, テレックス回線が普及してきており, 一部政府機関, ホテル, 郵便局等に設置されている。一般の人は郵便局から発信している。また郵便局宛で受信されたものは私書箱に入れられる。郵便局のテレックスの利用者は多く, 常に混雑している。また, 料金の支払いも時間がかかり, あまり便利ではない。ホテルのテレックスは手数料等で3割くらい高くなるが, 手際よくやってくれる。ただし宿泊客以外の場合は受信はできない。

ホテルのテレックス使用料金は1989年2月現在次のとおりである。

(ケニヤ宛)

1分間まで	約 700 シリング
2分間まで	1,400 シリング

(2) ファクシミリ

現在, まったくない。

(3) 電 報

郵便局で扱っているが, 信頼性にかける。テレックスを利用するほうがよい。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

モガディシュ市内には4ヵ所の郵便局があり, ここに私書箱が用意されている。ソマリアでは郵便物の宅配はされていない。

郵便事情はあまりよくない。郵便物の滞貨はよくある。また, まれではあるが, 開封検閲されていることがある。郵便物はすべて, はがきでさえも, いったん税関に回わされてから郵便局に届ける, と言った制度になっている。

ソマリア在住JICA専門家は, 中央郵便局にあるP.O.Box2707を借用している。年間使用料は500シリングである。届出使用者名は, Japanese Missionである。

通常, 郵便物の日本, ソマリア間の所用日数は5日から90日とちらばりが大きい。最近, 新しい郵送方法としてEMS(エキスプレス・メール・サービス)が導入された。しかしこれは, ソマリアから日本への発送は可能であるが, 日本がこのシステムの加盟国でないため, 日本からソマリアへの発送はできない。EMSの料金は0~500gまでのものは5,610シリングである。

通 信

(2) 課 稅

食料品, 本などは課税されない。小包の場合, 取扱い手数料として, 1
カートンにつき160シリングが徴収されるだけである。

マスコミ

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

ソマリアにおける日刊紙としては, Xiddigta Oktoobar (October Star:ソマリア語)がある。しかし、発行部数は8,000のみで、しかもモガディシュ市内でのみ購入可能である。英字紙は週刊紙として、毎週金曜日に発売される。市内にある1,2カ所の販売店で10シリンドで売られている。しかし発行部数はきわめて少ない。

(2) 本邦日刊紙

フランクフルト、もしくはロンドンにある本邦紙販売店から定期購読が可能である。

(3) 欧米紙

すべて個人で欧米から取りよせている。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ソマリア情報省下の放送局が1局ある。ソマリア語、アラビア語、イタリア語等で放送している。

(2) ラジオ・ジャパン

ラジオ・ジャパンの放送は日本語と英語で毎日2回なされている。日本語放送は現地時間で、午前11時から30分間、また午後7時から1時間の2回。一方、英語放送は午後6時から7時までの1時間の1回である。放送はアフリカ、ガボンにあるモヤビ送信所から中継されており、聴取の状態はよい。ラジオは短波放送が入る30MHz程度の容量があれば、十分聴取が可能である。しかしモガディシュ市内でも場所により、あまりよく聴えない所もあるようである。

ラジオ・ジャパンの周波数はつぎのとおり、

- 午前11時～11時30分 21700
- 午後6時～7時 21700
- 午後7時～8時 21700

ただし、周波数は変更されることがある。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

短波放送が受信できるラジオであれば、BBC, VOAはむろんのこと、ヨーロッパ各国の放送も十分聴取できる。

主な放送の周波数は次のとおり、

- BBC 15420 一日中放送
- VOA 15433 午後8時以降

ソマリア国内の動きに関しては、BBC, VOAが唯一の情報収集源であることから、短波ラジオはかならず携行されたい。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

ソマリア情報省下にテレビ局が1つある。チャンネルは1つである。
受信可能範囲はモガディッシュ中心より30Km以内である。

放送時間は毎日午後8時より11時頃までの2,3時間である。放送内容は国内の政治活動のニュースが中心である。時々、教育番組(外国製)、映画(中近東のものが多い)なども放映している。主な国内外のニュースが、午後9時半頃、英語解説で、約10分間位放映される。放映はすべてカラーである。

(2) テレビ受信

テレビ受信方式は、屋根にアンテナを取りつける必要がある。
一般家庭へのテレビ普及率はまだまだ低い。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-1 映画, 演劇

(1) 映画館

市内には、数多くの映画館があり、主にイタリアやインドの映画を上映している。時々、比較的新しい欧米の映画も上映している。

また、フランス・カルチャー・センターではフランス文化広報活動の1つとして、フランス映画の上映を週2,3回行っている。外国人はここで観賞している。当センターでは年5,6回、フランスより小さな演劇団を招待し、公演をしている。

10-2 出版, 書籍

(1) 一般事情

定期刊行物や書籍はほとんどない。ソマリア商工会議所が1,2種類のソマリア経済、商工業関係の報告書を出している程度である。これら報告書は市内にあるコピー店または、一部の民営ホテルで売られている。

(2) 書店

書店といえるものはない。路端の屋台でわずかの古雑誌などが売られている程度である。

文房具店はいくつかある。商品の数は少ないが、一応の事務用品の調達は可能である。

娯楽、スポーツ施設はほとんどない当国では、読書が唯一の余暇利用方法となるので、日本からある程度の本を持ってくることが望ましい。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

市内にはかなりの数の語学教室がある。これら学校ではイタリア語、アラビア語、それに英語を教えている。

フランス・カルチャー・センターではフランス語を教えている。200名近い数のソマリア人が勉強している。わずかではあるが外国人の生徒も見られる。

授業料は、1学期分(約3ヶ月間)が、外国人の場合は1万シリングで、ソマリア人の場合は2,500シリングである。

(2) 家庭教師

在ソマリアの外国人もしくはこれら語学教室の教師の中から、家庭教師を搜すことは可能である。

10-4 文化活動, 文化施設

(1) 一般事情

年に1回、ソマリア貿易博覧会が催されている。売店なども並び、ソマリアではもっとも大規模な業事である。

博物館が唯一の文化施設である。民芸品、遊牧民の生活様式、ソマリアの歴史などが展示されている。

テレビを通じ、ソマリアの民族ダンスなどが紹介されている。

10-5 写真, ビデオ

(1) 写 真

フィルムは白黒、カラー共売られている。コダック、アグフア、それに日本製品があるが、時々品切れになることがある。カメラもほんのわずかの数ではあるが売られている。

一日のうち半分は停電というモガディシュでは、現像時間もまちまちである。早ければ6時間で、場合によっては3日もかかることがある。

(2) ビデオ・セット

ビデオ・セットは日本製のものがあるが、品数はきわめて少なく、高価である。システムはPALで、VHSが一般に普及している。

市内にはかなりの数のビデオ・テープ貸し出し店がある。内容はインド、ヨーロッパからの映画が主で、日本のものはまったくない。テープ郵送の際は内容の検閲がなされるため、通関等に時間を要す。

(3) ミュージック・テープ

市内には、何軒かのテープ販売店があるが、品数は少ない。

10-6 音楽鑑賞, 演奏, 民族楽器

(1) 音楽会, コンサート

1年に1, 2回、フランス・カルチャー・センター主催のギター・コンサートが公演される程度である。このほかに会員制クラブのアメリカン・クラブや、イタリアン・クラブ内で時おり催されているようである。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

(2) ピアノ等

ピアノはほとんどないようである。調律師もいない。

最近, ソマリア人による楽器演奏グループが増えている。使用している楽器はドラム, エレキギター, キーボードである。

(3) レコード

レコード販売店はない。

(4) 民族楽器

特になし。

10-7 手芸, 絵画, 美術工芸

(1) 手芸

手芸用品の調達は不可, すべて日本から持参されたい。

絵画用品としては, クレヨン, 水彩画用品は調達可能だが油絵用品はない。

10-8 趣味

(1) 園芸

モガディシュ市内には, 土はなく砂だけであるため, 園芸は困難である。家庭菜園をするには, モガディシュより30kmほどの距離にある地域まででかけ, 土を自から取ってくるか, もしくは運転手, ウォッチャマンなどに手数料を払って, とて來てもらう必要がある。ただし, 最近(1989年2月)は市内の給水状況は悪く, 人間の生活用水さえも不足がちであり, 園芸用の水まではとても望めない。

(2) 釣り

桟橋や防波堤の近くでも, 大きな魚がみられる。しかし, ソマリアの海岸域では年間を通じて波が高いので, 釣りをするには注意が必要である。また, 釣道具用品はまったくないので, 日本から持つて來ること。

10-9 娯楽, 遊戯等

(1) 娯楽, 遊戯, ゲーム

娯楽, ゲーム等の施設はほとんどない。ソマリア人は, カードやチェスに似たゲームを楽しんでいる。最近, ビリヤード店が市内にできた。外国人も休日は, 家で友人とカードなどをして過ごしているようである。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

アメリカン・クラブ内に9ホールのサンド・ゴルフ・コースがある。会員制で、アメリカ人以外の者がメンバーになるのは難しい。

(2) テニス

アメリカン・クラブ, イタリアン・クラブにテニス・コートがある。また, 市内2,3ヵ所にソマリア政府のコートがある。

(3) スイミング

スイミング・プールは、アメリカン・クラブとグレード・ホテルにある。アメリカン・クラブの場合は使用できるのは会員のみである。しかし、グレード・ホテルでは、400シリング払えば、宿泊客以外の者でも使用できる。

モガディシュおよびその近辺には美しい海岸がある。しかし、さめによる被害が多発しており、海水浴は危険である。

(4) その他のスポーツ, 用具, ウエア

市内の治安は比較的よいので、早朝のジョギングなどは安心してできるようである。

運動靴は、イタリア製、韓国製などが調達可能であるが、他の用具類、ウェアはまったく無い。テニス・コートはあるが、道具は販売されていない。

(5) スポーツ・クラブ等

アメリカン・クラブの会員になる条件は、アメリカ人であることが最優先され、次に国連機関職員となっているようである。その他機関の邦人ではなかなか会員にはなれないようである。

10-11 風俗営業

市内には2,3のディスコ・クラブがある程度である。娼婦がおり、性病をもった者も多いようである。

ビール、ウィスキーもあり、すべてその都度の現金払いである。

10-12 子供の遊び

玩具はまったくない。娯楽用品もないのに、すべて日本から持参すること。

砂遊びの後はかならず手足等を洗けん、できれば消毒水で洗うこと。

その他のサービス

11. その他のサービス

11-1 美容院

美容院はいくつかあるが、ほとんどの外国人は各家庭で簡単なカット等をし、外国に旅行した折に美容している。

11-2 理髪店

理髪店は市内のあちこちにある。外国人は自分の家で散髪しているようである。ジュバ・ホテル内の理髪店は市内のものより多少は衛生的である。

11-3 日本から持参したほうがよい美容、理髪用品

シャンプー、リンスは現地でも調達可能であるが、できれば日本より持参したほうがよい。家族同伴の場合は、散髪道具一式を日本にて準備し、家庭で散髪するほうが衛生面からもよい。

12. 観光

12-1 地方旅行上の注意事項

ソマリア国内を旅行する場合は、政府機関からの許可証が必要になる。特に難民キャンプに行く場合は、NRC(National Refugee Commission)の承認を得なければならぬ。

現在北部地域では内紛が続いているため、当地方への旅行はできない。

南部にあるメカル、プラバはソマリアでは歴史のある町で、一見の価値はある。

交通手段としては、4輪駆動車が必須である。

地方への旅行の時は、かならず現地人(所属機関職員、友人等)に同伴してもらうほうがよい。

12-2 主要観光地、保養地ガイド

(1) 主要観光地、保養地

● モガディシュ市内

古いアラブ風の建物、モスクがある。

● メルカ、プラバ(モガディシュより各々120km、220km南)

メルカには美しい海岸がある。さめによる害もないようである。ここには、サンブシーとバラクダの2つのホテルがある。

プラバはバスコ・ダ・ガマが航海途中寄港した町として有名である。

ホテルが1軒あるが、設備、衛生ともに悪い。

12-3 旅行

(1) 自動車

主要道路は舗装されているとは言え、いたみのひどい所が多い。このような場所では、かえって脇道の未舗装道路を利用している車のほうが多い。地方での給油は難しいので、出発前に準備しておくこと。しかしモガディシュ市内でも給油制限があるため、かなり前もつた計画が必要である。

(2) バス

遠距離バスもあるが、老朽化しており、きわめて危険である。

(3) 鉄道

当国には鉄道はまったくない。

観光

(4) 航空機

地方主要都市には週一便くらいあるが、現在北部へのフライトは中止している便が多い。

12-4 エージェント
ない。

12-5 ホテル等宿泊施設の手配

地方には、適当な宿泊施設はほとんどない。ソマリア人がバスなどで長距離旅行する時は、乗継ぎ点附近の軒下、木かけ等で仮眠しながら旅行するようである。

ただし、ソマリア政府施設のゲスト・ハウスが主な地方町村にはあり、政府職員、およびその関係者はこのゲスト・ハウスを利用できる。これら施設へは、無線電話にて予約が可能である。

13. 治安,緊急時の心得

13-1 暴動,クーデター等

(1) 緊急時の連絡

ソマリアには日本大使館はない。邦人数も少ないため日本人会もない。したがって、邦人の緊急時対処方針や連絡網等はまったくない。

国連機関では、緊急時の対策方法が確立している。国連機関に所属している邦人はこれに従うことになるので、比較的安全である。しかし、JICAや民間の邦人については、1989年2月現在も、具体的な避難方法はまったくない。

緊急時には、ソマリアを兼轄する、在ナイロビ日本人大使館に連絡することになるが、可能な方法はテレックスだけである。

13-2 強盗,盜難

(1) 一般的治安状況

市内では、強悪犯罪事件のようなものは聞いていない。しかし、最近、日本ボランティア・グループの事務所が留守中に盗難事件にあっていいる。また、政府省庁事務所内でも物がなくなることは、きわめて多い。

政情不安、経済悪化、物価高等から一般市民の生活も不安定でかつ苦しく、治安の悪化の要素は充分にある。

(2) 防犯対策

戸閉りをしっかりとし、夜間外出をひかえる等、基本的防犯対策が必要である。

一軒家を借りる場合は、24時間勤務のウォッチャマンが必要である。

水、食料等生活必需品は緊急時に備え、ある程度の量を備蓄しておいたほうがよい。

13-3 火災,風災害,地震

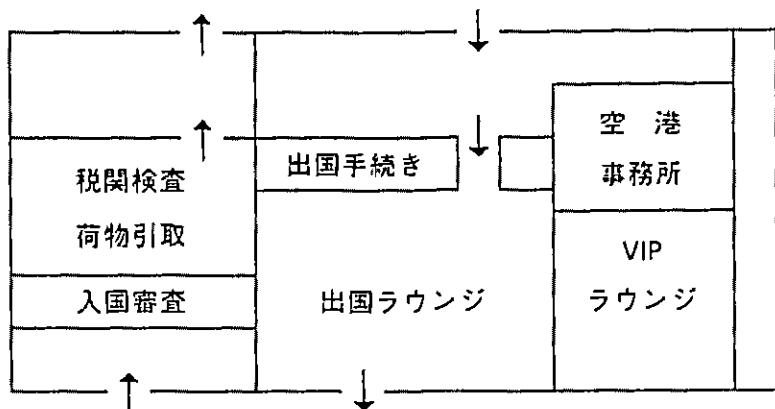
風水害、地震の可能性はない。

出入国手続きおよび帰国手続き

14. 出入国手続きおよび帰国手続き

14-1 入国時

(1) 空港施設概要



(2) 入国手続き書類

入国カードは、機内もしくは入国審査カウンター前で配布される。

(3) 入国審査

到着するとまず最初にイエロー・カードの提示を求められる。検疫官は入国審査カウンターの片隅におり、見逃がすおそれがある。

次に入国審査カウンターに進み、パスポートと入国カードを提示する。外国人用カウンターとソマリア人用と分けられているがどちらでも審査を受けられる。

(4) 税関検査

荷物取りカウンター内に自分の荷物を見つけたなら、中にいる係員に指示し、カウンターまでもって来てもらい。税関検査をうける。

次に、外貨申告カウンターにて、持ち込み外貨の申告書用紙を購入する（現地通貨で200シリング、初めての入国者は現地通貨がないので、誰かに借りることになる）。申告は正確に行う。申告用紙は2枚であるが、1枚は査証後返される。

入国後、市内で換金の際には常にこの申告書に換金証明印を押してもらうことになるので、大切に保管すること。

なお、市内で換金できる場所は銀行、指定ホテル、免税店だけである。

出入国手続きおよび帰国手続き

ソマリアには外資系の銀行はない。すべて国立銀行で、ソマリア中央銀行(Central Bank of Somalia)、ソマリア開発銀行(Somalia Development Bank)および、ソマリア商業銀行(Somali Commercial and Savings Bank)の3銀行である。

国連機関職員はソマリア中央銀行に外貨口座をもっている。

その他の外国人の場合は、ソマリア商業銀行の支店No.2のみが外貨口座開設可能な銀行である。外国人1人に対し外貨口座は1つが原則であるため、公金用(現地業務費等)口座を別に設けることはほとんど不可能である。

口座開設時には1,100ドルの預金が条件づけられている。

開設10日後位に、銀行で外貨用パーソナル・チェックをもらい、以降、換金はこのチェックをもって行う。このチェックが使えるのは、当銀行、換金業を認められた一部ホテル、それと免税店のみである。しかし、一般には、ホテルはこのパーソナル・チェックを受けつけたがらないのが現実である。

ソマリアへの送金は必要額だけにするべきである。

まず、ソマリアよりニューヨーク東銀(たとえば)宛送金依頼のレターを出す(モガディシュ～ニューヨーク間に10～15日を用す)。ニューヨーク東銀ではレター受取り次第、テレックスにてソマリアの銀行に送金通知をする。しかし、ソマリア側の事務処理に時間を要し、実際に口座に入金されるのは、レターを出してから1、2ヶ月後となる。テレックスの紛失といった事もよくあるので、時間を見計らって、銀行には何度も出かけチェックすることが必要となる。

送金された外貨は、すべて現地通貨に換金されるので、受け取りは現地通貨となる。しかし、外国旅行の際は、バスポート、航空券を提示すれば外貨の持ち出しも可能である。

なお、預金通帳といったものは、まったくないので、自分で記録をとっておき、残金を知っておく必要がある。銀行には台帳があるので、時々自分の記録と照合するほうがよい。

(5) 空港内での注意事項

初めてソマリアに入国する者にとって空港内での諸手続きはなかなか大変なこととなる。空港内にはボーターが便利屋を兼ねており、手助けをしてくれるが、チップの支払いでもめることがしばしばある。入国前に、ソマリア側関係先から出迎えの準備をしてもらうよう手配することが必要である。

また、入国者は、空港内で最小限度額100ドルを換金しなければならない。空港内の銀行で外貨申告書を提示、換金する。

出入国手続きおよび帰国手続き

(6) 空港からのトランスポーテーション

タクシーがあるが、公務で出かける場合は、関係先政府機関より車を手配してもらうほうがよい。

モガディシュに離着陸するソマリア・エアーラインの国際便は次のとおりである。(1989年2月現在)

FROM MOGADISHU TO :

	Week	Dep	Arr	FL No
ABU DHABI	Wed	0500	1230	HH404
	Sat	1900	0130 (Sun)	HH402
CAIRO	Thu	0040	0410	HH502
DJIBOUTI	Wed	0600	1100	HH40/048
	Sat	0600	1100	HH40/048
DOHA	Sat	1900	2300	HH402
DUBAI	Wed	0500	1110	HH404
FRANKFURT	Sun	0830	1645	HH500
	Thu	0040	1025	HH502
JEDDAH	Tue	0800	1205	HH412
	Sat	0800	1205	HH414
NAIROBI	Wed	1900	2035	HH610
ROME	Sun	0830	1400	HH500
	Thu	0040	0730	HH502
ABU DHABI	Wed	1330	1735	HH405
	Sun	0230	0635	HH403
CAIRO	Tue	0105	0605	HH501
	Sat	0105	0605	HH503
DJIBOUTI	Wed	1140	1640	HH049/41
	Sat	1140	1640	HH049/41
DOHA	Sat	2345	0635	HH403

出入国手続きおよび帰国手続き

FROM MOGADISHU TO:

	Week	Dep Arr		FL No
DUBAI	Wed	1200	1735	HH405
FRANKFURT	Mon	1720	0605 (Tue)	HH501
	Fri	1720	0605 (Sat)	HH503
JEDDAH	Tue	1305	1710	HH413
	Sat	1305	1710	HH415
NAIROBI	Wed	2125	2300	HH611
ROME	Mon	1955	0605 (Tue)	HH501
	Fri	1955	0605 (Sat)	HH503

ソマリア・エアーライン以外の外国航空機でモガディッシュに離着陸するものは次のとおりである。

- ケニヤ航空 : ナイロビ間 往復週一便
- ジブチ航空 : ジブチ間 往復週一便
- サウジアラビア航空 : ジェダ間 往復週一便
- エアローフロート航空 : 往復週一便
- 南イエメン航空 : アデン間 往復週一便

14-2 出国時

(1) 施設

入国時の項参照。

(2) 出国手続き上の留意点

ビザに関しては、ソマリアの滞在ビザの期限内であれば再入国は問題ない。

なお、長期滞在予定者で短期ビザを持って入国した場合、ビザ有効期限内に長期ビザ(通常1年間)への切りかえをしなければならない。現地側所属機関より証明書を書いてもらい、パスポートにそえて申請する。

出入国手続きおよび帰国手続き

その後、外国旅行で出入国する際、この長期ビザの期限内であれば問題はない。空港ではビザの発給はしないので、期限切れの場合は入国不可能になる恐れがある。ビザの期限には注意が必要である。

また、コレラの予防接種有効期限は短く、確認を忘れがちである。期限切れの場合は入国できないので要注意。

入国時に申告した外貨額と、換金した外貨の差額、および換金が正規に行われたかどうか、外貨申告書と合わせ厳重にチェックされる。

出国にあたって、空港税として20ドルが必要である。

14-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き
特になし。

(2) 車の処分

車を売却するには、新聞紙上もしくは、外国人がよく利用するスーパー・マーケット店内に掲示するか、知人を通じ口こみによる方法が一般的である。

免税輸入車を免税特権有資格者に売却する場合は、車体価格のみで売却できる。しかし、その他の人間に売る場合は、買主が関税、物品税等を支払わねばならない。

(3) 家財道具の処分

買手を探す方法は、車の場合と同じである。

(4) 住宅の明渡し

ソマリアでは敷金、権利金といったものはないので、住居明渡し時に屋主からの払戻し金はない。

通常、明渡し一ヶ月以上前に、屋主に通知する。明渡し時、屋主立ち合いのもとで屋内・外を検査し、破損箇所などあれば、契約書の内容にもとづき、場合によっては修理代を請求される。

(5) 銀行口座の閉鎖

外貨口座を閉鎖したい旨のレターを、銀行マネジャー宛に提出する。同時に使用していたパーソナル・チェックの残り分も返却する。

残金を外貨で持出したい場合は、航空券が必要である。航空券がない場合は、すべて現地通貨に換金され支払われる。

私財の輸送,引取り,購入

15. 私財の輸送,引取り,購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

輸送業者もいるようだが,通常,外国人は所属機関を通じ引取り手続きをしている。

15-2 自動車

(1) 一般事情

個人でも,また,現地の業者を通じても車の輸入は可能である。しかし,入手するまでに時間がかかることと,港での保管時に損傷の危険が大きい。

日本から輸送する場合,ソマリアへの直接船便はなく,ジブチ経由となる。

(2) 輸入手続き

輸入に必要な書類は次のとおり。

- B/L(船荷証券原本) Invoice, Packing List
- 所属機関よりの身分証明書

主な輸入代理店は次のとおり。

MARILL SOMALIA LTD TEL:21911

(3) 任国での購入

免税特権が与えられている者同士であれば,名義変更手続きと,ナンバー・プレートの変更でよい。

サウジアラビア仕様の中古車が税込み価格で販売されているが,スペアーパーツの調達が困難である。

(4) 自動車登録

ソマリア在中の外国人(ほとんどが援助関係者)の場合,個人で車を輸入もしくは現地購入している者はきわめて少ない。すべて所属機関に援助した車を使用している。したがって,それら車の輸入,また登録等の手続きはすべて関係機関が行っている。

(5) 免許書取得

所属機関からの身分証明書と本人の国内および,国際自動車運転免許証を提示するだけでよい。簡単な視力検査がある。

私財の輸送、引取り、購入

(6) 保険、税金

所属機関に援助した車であれば、その機関で支払う。

SICOSSという国営の保険取扱い機関があり、対人および対物で6000
シリングくらいである。

また税金は“Road Tax”として少額を支払う。

社　　交

16. 社　　交

16-1 風俗,習慣

レストラン等で食事をしているのは、ほとんど男性だけである。これも習慣の1つのようである。したがって、パーティー等への招待も、夫人の同伴をすすめる必要性はない。

16-2 パーティーでの留意点

通常、ソマリア人を含めたパーティーは昼食時に行われる場合が多い。イスラム教徒とはいっても、アルコール類を飲酒する者もかなり多い。したがって、パーティーの席上に酒類を出しても問題にはならないが、なるべくなら控えたほうがよい。

16-3 来客時,訪問時の留意点

特にない。ただし、礼拝時の訪問は避けたほうがよい。礼拝時は日出没時によって変化するが、おおよそ次のとおりである。

礼拝時は1日5回である。

午前	5時から	5時30分の間
午後	12時から	13時の間
午後	15時15分から	16時の間
午後	18時から	18時30分の間
午後	19時30分から	20時の間

任国公官庁

17. 任国公官庁

(1) 機関名, 執務時間(1989年2月現在)

ソマリア国の省は次のとおりである。執務時間は午前8時より午後2時頃までである。

The Ministry of ...

- 1) Justice & Religious Affairs(宗教省)
- 2) Foreign Affairs(外務省)
- 3) Defence(国防省)
- 4) Interior
- 5) Finance & Revenues(大蔵省)
- 6) National Planning & Jubba Valley Development(計画, ジュバ渓谷開発省)
- 7) Information & National Guidance(情報観光省)
- 8) Agriculture(農業省)
- 9) Livestock, Forestry & Range
- 10) Fisheries & Marine Transport
- 11) Labour & Sports(労働, スポーツ省)
- 12) Health(保健省)
- 13) Education & Culture(教育, 文化省)
- 14) Land & Air Transport(陸運, 空輸省)
- 15) Public Works & Housing(公共事業, 住宅省)
- 16) Mineral & Water Resources(水, 鉱物資源省)
- 17) Post & Telecommunication(郵政省)
- 18) Tourism & State Hotels
- 19) Industry & Commerce(商工省)

在外日本関係機関等

18. 在外日本関係機関等

(1) 機関名 (1989年2月現在)

- 1) JICA水産専門家勤務先
ソマリア水産省内
- 2) 豊田通商(株) ソマリア事務所
TEL: 21911
- 3) 日本国際ボランティア事務所

地方都市

19. 地方都市

ソマリアにおいて、モガディシュ以外の都市に在住している邦人はいな
い。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルであり、JICAの用務による業務渡航者用に作成されていることをあらかじめご了承願います。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステイクスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえていますので合わせてご利用ください。

— アジア地域 —

1. バングラディッシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. 中国
5. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
6. マレーシア
7. ミャンマー
8. ネパール
9. パキスタン
10. フィリピン
11. シンガポール
12. スリランカ
13. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)

— 中近東地域 —

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. ジョルダン
5. クウェイト
6. モロッコ
7. オマーン
8. カタール
9. サウディ・アラビア
10. 南エメン
11. スーダン
12. シリア
13. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
14. アラブ首長国連邦 (ドバイ)
15. イエメン

— 太平洋地域 —

1. フィジー
2. キリバス
3. マーシャル
4. ミクロネシア
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン
7. ヴァヌアツ

— アフリカ地域 —

1. ブルンディ
2. エティオピア
3. ガンビア
4. ガーナ
5. 象牙海岸
6. ケニア
7. リベリア
8. マダガスカル
9. モーリシャス
10. ニジェール
11. ナイジェリア
12. ルワンダ
13. セイシェル
14. ソマリア
15. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンジバル)
16. トーゴ
17. ザイール
18. ザンビア

— 中南米地域 —

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル
(ブラジリア、サンパウロ、レシフェ、
ボルトアレグレ、ペレーン)
4. コロンビア
5. コスタ・リカ
6. ドミニカ共和国
7. エクアドル
8. グアテマラ
9. ホンジュラス
10. メキシコ
11. パナマ
12. パラグアイ
(アスンシオン、エンカルナシオン)
13. ベル
14. トリニダッド・トバゴ
15. ウルグアイ
16. ヴェネズエラ

任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見(説明不足、間違
い、誤字、誤植、ご要望など)をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任
国情報に関するこのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

[返送先] 〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5

国際協力センタービル

国際協力事業団 国際協力総合研修所

技術情報課 任国情報係

国名 年度 年版

氏名			年齢	歳	性別	男・女
利用区分	所属(担当)部課名	指導科目	派遣期間			
JICA役職員						
JICA専門家等						
その他		(所属先)	(当該国での滞在期間)			
住所						
電話番号				日付	年	月

国 総 研 記 入 領				
記 事	技術情報課確認印			
	データベース修正処理	課長	代理	担当
	月 日	月 日	月 日	月 日

JKCA

LIE